



ふりがな 氏名	さいとう みゆう	都道府県	北海道	
	齊藤 美悠			
所属/肩書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(一財)北海道国際交流センター プログラムコーディネーター</li> <li>・ESD 活動支援センター 社会人 ESD ユースレポーター</li> </ul>			
私のESD活動	大沼ラムサール女子会の活動によって、環境やまちづくりに関心を持ってもらうユースを育ててゆくこと			
関心・活動のSDGs				

## 活動の概要

2012年に、ラムサール登録湿地に決定した大沼国立公園は、四季の変化が美しく、毎年多くの観光客がやってきます。その一方で、周辺の家畜の糞尿などの影響により、アオコが発生したり、湖の環境の悪化が懸念されており、観光だけではなく、農業や酪農業、漁業にも深刻な打撃を与えています。人口2000人くらいの小さな地域ではありながら、それぞれの産業の対立もあり、環境問題と地域経済が反発し、なかなか改善策が見つからないのが現状でした。

そこで、地域のステイクホルダーの間を取り持つ形で、自治体や企業、NPOに所属する女性を中心に、2013年に「大沼ラムサール女子会」を結成し、大沼のレシピづくりや、環境についての勉強会、ツアーなどを行ってきました。ニュートラルな位置にある「大沼ラムサール女子会」には様々な産業、セクターの人たちが協力してくれる関係性も生まれてきました。現在に軸をおいて話し合うのではなく、未来に向かって、子どもや若者たちを育てることを考えること。そして、子どもたちや若者のためにも、この環境を改善し、守ってゆこうという機運が生まれてきました。

今回のコンファレンスから、様々な分野やセクターをつなげることを学び、「巻き込む力」を身につけることによって、今後の地域活性化と、ユースの人材育成につなげてゆきたいと思います。

## 今後の活動の展望と周囲や社会への還元

コンファレンスを通じて、3つの目的を持って進めてゆきたいと考えています。ひとつは、「大沼ラムサール女子会」の活動を活性化すること。単に回数を増やすというよりは、多くの人の「巻き込み」をどう生むかということをしっかり考えて行動することで、地域にそして未来に影響のある活動になるということです。二つ目は、活動する仲間を増やし、スタッフの人材教育をしてゆくことで、活動の幅と、質の維持に努めてゆきたいと考えます。そして、三つ目は、国際交流の持つ多様性を受け入れる精神を活かしながら、「多様性を共に支えあう社会づくり」について、参加者の皆さんと話し合い、更には地域に発信してゆきたいと考えています。

「大沼ラムサール女子会」の小さな取り組みが、地域の対立構造に、小さな穴を開け、様々な巻き込みの中で、少しずつ社会を変えてゆく。話し合いの時間軸を、現在に置くのではなく、未来に置き、子どもや若者の視点を取り入れる考え方を浸透させてゆくことで、周囲や社会に還元してゆきたいと思います。